

性能種別	性能評価項目		性能評価指標	要求水準	性能評価	試験方法・条件	備考
	項目	内容					
②従来の道路トンネル非常用施設(自動通報設備)を補完し火災検知精度を向上させることができる技術	基本性能	A-1 機能	検知機能	従来技術の検知精度を向上することができること	—	—	・B-1 検知精度で確認する。
		A-2 耐久性	耐久性能	・火災検知器の使用環境下で正常に動作する耐久性能を有する	資料-2による	—	・国土交通省『機械工事施工管理基準(案)』(令和2年3月)第2編 設備別編 第5章 トンネル換気・非常用施設 第5節 火災検知器の耐久性能に関する試験結果を提出してもらい確認する。
		A-3 機器等の設置方法	設置位置	・建築限界を侵さないこと ・維持管理等作業に支障とならないこと	—	—	・応募時の申請書類等で確認する。 ・必要に応じて、現場試験時に設置位置を確認する。
			配置	・火災を正確に検知できる配置間隔であること	—	—	・応募時の申請書類等で確認する。 ・必要に応じて、現場試験時に配置を確認する。
		設置方法	・二重落下防止の対策が施されたM8以上のボルトナットにより設置すること、又はそれと同等以上の二重落下防止対策ができること	—	—	・応募時の申請書類等で確認する。 ・必要に応じて、現場試験時に設置方法を確認する。	
	火災検知の補完性能	B-1 検知精度	従来技術の火災検知精度を向上させるための性能	従来技術の検知精度を向上することができること	—	—	<p>【b. 火災検知精度(誤検知、未検知※)の試験方法】</p> <p><試験方法1> NEXCO『トンネル非常用設備 通報機器 標準仕様書 検査方案書』(令和元年7月) 第2章 検査内容 2-1 機器完成時検査(以下、「NEXCO基準」という)の不動作性能に関する試験結果を提出してもらい確認する。</p> <p><試験方法2> NEXCO基準以外の不動作性能の試験結果がある場合、提出してもらい確認する。</p> <p><試験方法3> 誤検知または検知を阻害する条件を含んだ現場実証試験方法の提案が応募者からあり、発注者が提供するフィールドで試験が可能と判断した場合は、現場実証試験を行い性能を確認する。</p> <p>※誤検知:火災でないものを誤って検知してしまうこと 未検知:火災であるものを見逃して検知できないこと</p>
	経済性	C-1 製品費用	製品本体の費用	延長3,000m、対向2車線のトンネルに設置する台数分の製品費用	—	—	・応募時の申請書類等で確認する。
C-2 工事費		設置費用	延長3,000m、対向2車線のトンネルでの設置費用	—	—	・応募時の申請書類等で確認する。	
C-3 維持管理費		維持管理費用	延長3,000m、対向2車線のトンネルでの点検費用と頻度	—	—	・応募時の申請書類等で確認する。	

※各性能評価項目の要求水準、性能評価等は、資料-2に示す。

※記載にない性能については、現場での必要に応じて、求める性能の内容・程度を判断する。